

ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元： KDDI 株式会社

| No | 該当箇所 | ご意見の内容 | ご回答 |
|----|----------------------------|---|--|
| 1 | | <p><意見内容></p> <p>スマートメーター網は、供給側の業務効率を図るとともに、需要家が情報を得て、自律して電力需給に参加する社会インフラであると認識し、その多角的、有効的活用に積極的に関わり、供給側のトータルコスト低減に寄与し、需要家側においてもコスト低減できるなど、複合的に社会への便益をもたらすことに貢献したいと、弊社は考えています。</p> <p>このような考えから、スマートメーター網の通信基本仕様について、供給側観点とともに、需要家視点を大切にして、以下意見を述べさせていただきます。</p> | <p>No.2～No.4 で各々のご意見にご回答いたします。</p> |
| 2 | I. スマートメーター通信ネットワーク検討の前提条件 | <p><意見内容></p> <p>本章に記載されている機能要件(I-2. スマートメーター通信ネットワークに求める機能)は、当然のことながら電力会社様の業務活用に主眼が置かれていると拝しますが、併せて、社会インフラの位置づけとして、先々を見た拡張性も必要と考えます。</p> <p>したがいまして、スマートメーター網の通信ネットワークの仕様策定には、以下の①～④の事項を機能要件に含めて検討しています。(添付資料P5)</p> <p>① オープンスタンダードであること ⇒ 世の中の優れたプロダクトを低コストで調達可能</p> <p>② 設置後即、人手を要することなく運用開始可能であること ⇒ 早期展開による効果</p> <p>③ 相互接続性が担保されること ⇒ 競争原理によるコスト低減</p> <p>④ 将来を見据えて拡張性を有すること ⇒ 用途拡大によるコスト最適化</p> | <p>いただいたご意見については今後の通信方式選定時の参考にさせていただきます。通信方式の選定においては、コスト、技術の優位性、今後の普及や長期利用の見込み等の見極めが重要となるため、確立された標準規格の採用を原則として、今後、RFP と技術実証により詳細に評価する予定です。</p> <p>また、相互接続性や将来サービスを見据えた拡張性の確保も重要と考えておりますので、通信方式の選定と合わせて検討してまいります。</p> |

| | | | |
|---|-------------------------|--|--|
| 3 | Ⅱ．通信方式選定の考え方 | <p><意見内容></p> <p>本章の「(参考)通信方式適用の考え方」(P18)に記載の、「3つの通信方式を地域特性に合わせて導入する」、「費用対効果の面から無線マルチホップを主な方式とする」、という考え方について、以下の①～③が考えられます。(添付資料P33～P38)</p> <p>① 無線マルチホップ方式は、「スマートメーターの収容効率を高めることで、投資コスト抑制が可能」とされていますが、膨大な数量のコンセントレーターを購入・工事・設置する必要があり、相当の初期投資コストが必要と考えます。また、コンセントレーターまでの光ファイバーの敷設にかかる投資コストも膨大であると推察いたします。</p> <p>それに対し、セキュリティ・運用保守体制が既に確立された弊社の通信ネットワーク網をご活用頂くことで、新たに自営網を構築する必要がなく、初期投資コストの大幅な低減、展開の早期化が可能である。</p> <p>② 1:N 無線方式を「山間部などお客様が点在するエリア等」に適用するとされていますが、例えば、弊社の無線サービスの世帯カバーエリアはほぼ100%であり、実力値として一般住宅エリアへの適用は十分可能であり、また費用対効果の面でも無線マルチホップよりも比較優位性がある。</p> <p>③ 無線マルチホップ方式を「スマートメーター毎に事業者サービスの通信費用が不要なため、ランニングコストの面でも有利」とありますが、運用人件費を含めた総コストで比較すべきである。</p> | <p>通信ネットワークの構築については、求められる機能・要件を十分に吟味した上で、通信事業者の既存インフラやサービスの利用も含め、極力低コストで実現することを目指します。</p> <p>具体的には、今後、通信事業者に対して具体的な条件を提示した上でのRFPを行い、要件を満足する提案を比較検討し、トータルコストが最小となるよう、適材適所で適用する通信方式を選定します。</p> |
| 4 | Ⅲ．無線マルチホップネットワークのシステム概要 | <p><意見内容></p> <p>無線マルチホップネットワークは、以下の①～⑤の課題があり、広域な社会インフラ(スマートメーター網)として、中長期で使う通信ネットワークの中核に据える方式には適さないものと考察致しております。</p> <p>① 電波の被干渉： 免許不要の共用周波数を利用することから、他のユーザ／方式との電波干渉のリスクがある。(添付資料P11)</p> <p>② 狭帯域方式： 大量データの通信が困難であるため、遠隔検針以上の用途への活用には限界があり、拡張性に乏しい。(添付資料P12)</p> <p>③ 設置してもすぐに繋がらない： 検満同調を前提とすると、マルチホップ無線方式は、新メ</p> | <p>いただいた電波干渉、拡張性、運用性等のご意見は、今後の通信方式選定時の参考にさせていただきます。</p> <p>なお、通信方式に依らずIPを実装する方針に変更することといたします。</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>ーターの設置密度が上がらないと相互に繋がらない。(添付資料P13)</p> <p>④ 運用保守が複雑: 数万台に及ぶ屋外コンセントレーターを維持・運用する必要があるほか、トラブル発生時の切り分けや再現性の確認が困難等の問題がある。(添付資料P14)</p> <p>⑤ 独自仕様: 非IP 通信、非標準方式であるため、世の中で優れ且つ低廉なプロダクトを活用できない事および、拡張性、発展性の確保が困難である。(添付資料P15)</p> | |
|--|---|--|